



山陽スピリット ニュース No.14

2018(平成30)年11月29日

発行：学校法人 山陽学園 広報・山陽スピリット推進室

花絵葉書からスピリット遺伝子まで

元山陽学園理事

笠井 英夫

手元に数葉の花絵葉書があります。

“Pass it on あなたになされた親切は次の人へ譲り渡すために与えられた親切です”

“辛抱第一何くそで Patience is above everything else”

堤堅先生の花水彩画の上に日本語と英文で書かれた上代淑先生遺訓絵葉書です。

Sanyo Gakuen University & College CAMPUSGUIDE 2019 齊藤育子学長の巻頭言に、建学の精神「愛と奉仕」を軸として本学には「目覚めよ知性。目覚めよ、自分」と在学中に自らを磨く環境が整っていることが書かれていました。これを読んで私はもう一度社会人学生として勉強したくなります。建学から132年、学園はそれほど身近な存在です。母が大正初期に若き上代淑校長の薫陶を受け、よって3人の姉も校長を慕い太平洋戦中、戦後を学園で過ごしたからです。そんな縁で、校舎は1945年の岡山大空襲で灰燼かいじんに帰し、その復興に幾多の財政危機を乗り越越

えて大学設立までの道を私は直に肌で感じ、見てきました。

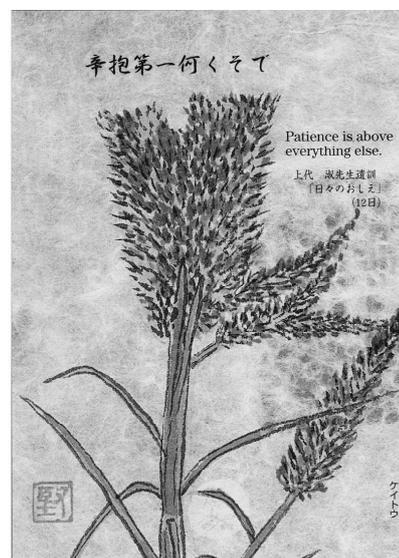
話は変わって、少子化で山陽学園は大変厳しい運営を強いられているでしょう。その中で理事長、学長を先頭に教職員の全員が建学の精神の基に一致団結、全力を尽くされておられます。学園執行部がその安定運営に全力を尽くすは当然ですが、皆さんはこれからの岡山・日本・世界を発展させる玉(貴方)に磨きをかける時と場にいる事を自覚し、現世ではもう古語となった「辛抱第一何くそ」精神で頑張っていたいただきたい。繰り返しますが本文を読んでくださる皆さんは先人達が困難をいとわず、何くそ精神で学園を作ったから今の貴方があることを忘れないでください。

在学生諸君、あなたは自分自身を成長させるために高額の学費を費やしています。ならば、さぼりや居眠りなどはご法度、在学中はどん欲に知識を吸収して自らを価値物に成してください。そして卒業後も故郷・母港(校)に帰るように学園を愛して親しんで頼ってください。これからの学園には卒業生が係わらない将来構想はあり得ません。学園の将来は皆さんが担うのです。国は徴税という権力でもって税金を集めます。国の税金金庫から本学園は補助金を受けています。十分な額でなく用途には条件や制限がかかります。

欧米先進諸国の学園はどうでしょうか？

欧米に習い、日本も徴税を和らげ国民に自律を求める方法を制度化しました。公益法人制度改革として寄付税制への道を大きく開いたのです。ふるさと納税もそのひとつですが、国は公益に資する事業を担う民間団体への寄付には税をかけない、すなわち納税者の意志や目的を尊重する国民の自律による国家運営サイクルです。

国を学園と読み替えてください。学園



で学ぶ諸君が母校を支え、愛さないと将来はありません。寄付だけをせよといっているではありません。学んで磨かれた皆さんが学園で得た成果を社会に、学園に、還元してほしいのです。

かといって愛と奉仕、辛抱一番など精神論だけでは課題を解決できません。しかし先輩、教職員、学園を支えている多くの人々が理想をいただき最善の教育環境を目指し奮闘するエネルギーには愛と奉仕遺伝子が大きくかかわっている事は間違いありません。

あなたはそのエネルギーが口へ流れ込むのを受けただけでは進歩がありません。今は友人、講義、ゼミ、実習、研究、運動、試験など物質的な場で自分を磨く時です。いまが人生の幹を決めるのです。そんな大切な時を過ごすうちに山陽スピリットが培われるのです。

気づかない間にあなたに刷り込まれたスピリット遺伝子は枝や葉を茂らせ人生のこれからに必ず役立ちます。

人生は波乱万丈、楽しいことも阿修羅の日もあります。想定外の事も起こるでしょう。その時にはスピリット遺伝子が働き、こころ豊かに暮らせませす。

今ではもう大先輩の警咳に接した人は少なくなりました。若人に語り伝えられる遠い偉い人になったのです。

その人達への温故を強調すると、泉下のちょっとシャイな上代先生は「いつまでも私にさばらない(しがみつかない)で知新に進みなさい」と言われるでしょう。(温故知新は誰でも知っている熟語ですが、知新は淑先生のお父さんの名前でもあります)

意識しないでも我々は森羅万象から多くを学び自分に取り込みます。それらを積み重ねる勉強が続きます。勉強の成果は、入学試験であり、資格取得であり、就職活動であり、人生設計であり、子育てであり、社会生活であり、社会貢献であり、コミュニティ生活などすべての日常に役立ちます。平易に言えば長い経験(勉強)による学習効果です。

学校は経験学習を重ねた先輩から若人が能率良く効果的に学び取るところです。

本学は理想に燃えた先生が若人のために知新を学ぶ場を設けた私学ですから、どうしても歴史と温故に依存しがちです。しかし皆さんは過去を踏まえつつも、「これから」に大きな目を向け力を入れて欲

しいのです。

本学では結論を出すだけでなく多様性を尊ぶことも学べます。入学試験は一つの解答だけを求めますがそれは終わりました。

これからは違います。時間をかけて物事をじっくり考えること、知るのは楽しいことです。そうすると知らないことが沢山あることに気づきます。それが知新なのです。

それらを体験し、実践するのが皆さんを取り巻く社会(コミュニティ)です。考えることから取り組めば勉強は楽しくなります。そしてあなたは大きく成長します。その時に山陽スピリットが芽生え大きく育つのです。

長くなりました。最後に、知らない間に私の中に刷り込まれた愛と奉仕スピリット遺伝子の紹介で終わります。

どこでも貧困国は女子教育を蔑ろにします。これに違和を感じた私は28歳の時から毎月1万円をフォスタープランに委ねネパールやアラブ諸国の娘の義務教育期間を支え40年を超えました。その間に多くの娘が母親となり近隣の子供たちに教育が大切なことを教えているでしょう。

教育は社会発展の最も大切なエネルギーの源です。それを愛と奉仕という名のもとに引き継いでいるのが山陽スピリットです。このスピリットを山陽学園だけのものにしないで世界のスピリットにするのが皆さんの務めなのです。



笠井 英夫 先生

昭和37年 岡山県立操山高等学校卒業

昭和44年 岩手医科大学医学部卒業

昭和52年 岡山大学医学博士

平成5年 岡山大学法学部卒業

平成14年4月～平成24年3月 岡山県医師会理事

平成19年9月～平成26年12月 山陽学園理事

平成26年6月～平成28年6月 日本医師会常任理事